

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/03/02

### 各国中銀の金融政策に注目

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	↘	RBAは政策金利と声明文の2段構えで 予想レンジ: 88.200 ~ 95.600 円	2-3
<a href="#">NZドル/円</a>	→	RBNZは中立姿勢を変更するか 予想レンジ: 87.600 ~ 94.000 円	4-5
<a href="#">ランド/円</a>	→	SARBの声明を確認 予想レンジ: 9.900 ~ 10.600 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

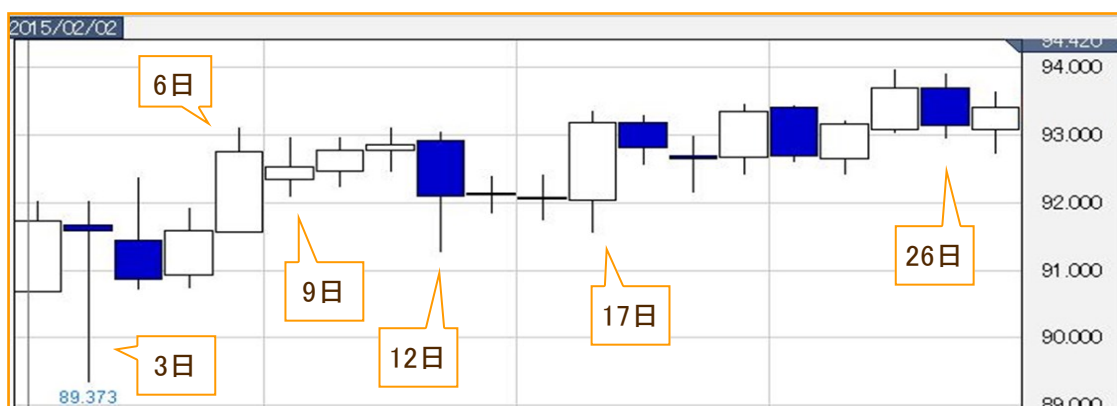
## 豪ドル/円 2月の推移

AUD/JPY

2月の豪ドル/円相場は89.373～93.962円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

豪準備銀行(RBA)の利下げをきっかけに売られるも、売りの勢いが一服すると徐々に反発。その後は為替市場に様子見ムードが広がった事から、90円台前半で小動きが続いた。下旬に発表された中国の経済指標が良好であった事や、本邦や米国で株高となった事を手掛かりに94円目前まで値を上げるも伸び悩み、26日に発表された豪10-12月期民間設備投資の弱い結果を受けて3月RBA理事会での利下げ観測が再び高まった事が重石となって伸び悩んだ。

なお、本邦から巨額の豪企業買収観測が浮上したが、豪ドル/円相場への影響が限られるなど、月初を除くと動意の薄さがやや目立った。



## 四本値

OPEN	90.691
HIGH	93.962
LOW	89.373
CLOSE	93.417

3日	RBAが政策金利を0.25%引き下げ、年2.25%とすると発表。金利据え置き予想が多かった中での発表を受け、豪ドル/円は急落。声明文で追加利下げの可能性を否定しなかった事や、一段の豪ドル安を志向した事も重石となり、2014年2月以来となる89.373円の安値を記録した。しかしその後、ギリシャ懸念が和らぐのではとの期待を背景にNYダウ平均が上昇した事や、減産観測を背景に原油相場が上昇した事などから、92.035円まで反発した。
6日	RBAは四半期金融政策報告で、トレンドを下回る成長がより長期に渡り続くとの見方を示したが、追加利下げについて明確な姿勢は示さなかった。これを受け、豪ドル/円はやや買われた。その後、米1月雇用統計を受けてドル/円が大幅に上昇した影響を強く受けて93.104円まで一段高となった。
9日	日経平均の上げ幅縮小を嫌気して豪ドル/円は92.117円まで下落。前日8日に発表された中国1月貿易収支で、石炭を始めとする商品の輸入が減少した事を主因に輸入が前年比-19.9%(予想:-3.2%)となり、中国の経済成長鈍化への警戒感が改めて広がった事も重石となった。ただ、その後は原油相場の上昇を受けて92.977円まで反発した。
12日	豪1月雇用統計は労働参加率こそ64.8%と予想(64.7%)をわずかに上回るも、失業率が2002年8月以来となる6.4%に上昇(予想:6.2%)し、雇用者数変化は正規雇用者数が減少(2.81万人減)した影響を受けて1.22万人減(予想:0.50万人減)となるなど、総じて弱い結果であった。これを受け、豪ドル/円は急落。その後日銀関係者の話として「日銀追加緩和は逆効果、10月緩和は消費者マインドに悪影響」等と一部で報じられると円買いが強まり、91.283円まで一段安となった。
17日	「日本郵政グループが豪物流大手トール・ホールディングスを6000億円規模で買収する方向で最終調整に入った」と報じられたが、反応は限定的。その後、「ギリシャが18日に6か月間の融資延長を申請する可能性がある」との報道を受け、何らかの妥協が成立するとの期待からNYダウ平均が上昇すると、93.365円まで上値を伸ばした。
26日	豪10-12月期民間設備投資が前期比-2.2%と予想(-1.6%)より弱い結果となった。これを受け、市場ではRBAの3月追加利下げ観測が再び広がり、豪ドル/円は下落。その後は原油相場の下げ幅拡大も重石となり、92.967円まで一段安となった。

AUD/JPY

## 日 経 平 均

OPEN	17536.61
HIGH	18865.39
LOW	17271.87
CLOSE	18797.94

## NYダウ平均

OPEN	17169.99
HIGH	18244.38
LOW	17037.76
CLOSE	18132.70

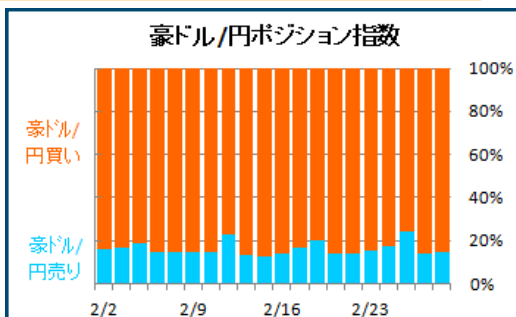
## 上海総合指数

OPEN	3148.136
HIGH	3324.546
LOW	3049.111
CLOSE	3310.303

## 豪10年債利回

OPEN	2.3930%
HIGH	2.6430%
LOW	2.2480%
CLOSE	2.4590%

## 2月のポジション動向



## 3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャシュターゲット(3日)
- ・日銀金融政策決定会合 (16~17日)
- ・豪10-12半期GDP(4日)
- ・RBA議事録(17日)
- ・豪1月小売売上高(5日)
- ・米FOMC(17~18日)
- ・中国全国人民代表大会(5日~)
- ・中国3月HSBC製造業PMI・速報 (24日)
- ・米2月雇用統計(6日)
- ・豪2月雇用統計(12日)

## 3月の見通し

足元で追加利下げ観測が高まる中、今月はRBA理事会が焦点である。仮に利下げが実施された場合、声明文で追加利下げの可能性について言及があれば、豪ドル売りが加速しそうだ。ただし、RBAの政策金利について、エコノミストの間では2%ちょうどで利下げが打ち止めとなるとの見方がコンセンサスとなっている事から、RBAが利下げの効果を見極める姿勢を示すようだと、売リー巡後にショートカバーが入る事も考えられる。また、今回の理事会について見方が分かれており、政策金利の据え置きが発表される事もあり得る。今回は利下げの有無と、声明文での今後の政策スタンスを注視する必要がある。

豪国外では、米利上げ開始時期を読む上で、米連邦公開市場委員会(FOMC)に注目したい。今回は「利上げに向けて『辛抱強く』いられる、という文言が削除されるかどうか」が焦点である。削除されれば6月利上げの可能性が高まるが、残れば9月以降に後退する事も考えられる。利上げ前倒し観測は米長期金利の上昇要因であり、これを受けて米ドル買いが強まるようだと、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円相場を下押し可能性がある。ただし、利上げできる程に米経済が回復しているとの見方が広がり、NYダウ平均が先月に続き史上最高値を更新するようならば、反対に豪ドル買いの要因となる事も考えられる。声明を受けて米長期金利と米株価のどちらがより強く反応するかを見極めたい。

その他、豪州の主要輸出先である中国で、全国人民代表大会が開催される。昨年のGDPは目標(約7.5%)を僅かに下回る7.4%に留まるなど景気減速が懸念される中、今年のGDP目標は7%台を維持するのか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 88.200~95.600円)

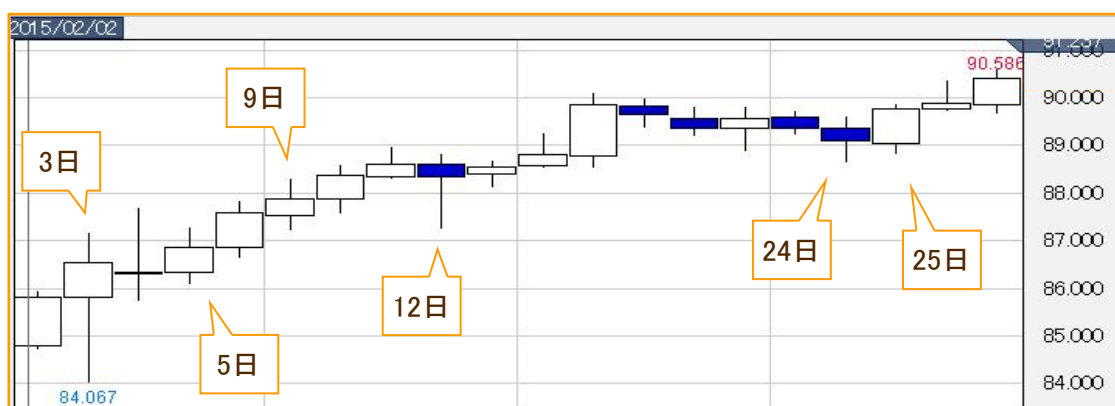


## NZドル/円 2月の推移

NZD / JPY

2月のNZドル/円相場は84.067～90.586円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.9%の大幅上昇(NZドル高・円安)となった。

豪準備銀行(RBA)の利下げを受けた豪ドル安に連れて値を下げる場面は見られたが、その後はNZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品オークションが好調であったのを始め、ギリシャ問題に対する楽観的見通しを背景に主要国株価が上昇した事や、下旬に発表された中国の経済指標が良好であった事などから、堅調に推移。27日に月の高値となる90.586円まで上値を伸ばした。



## 四本値

OPEN	84.824
HIGH	90.586
LOW	84.067
CLOSE	90.430

3日	RBAが予想外の利下げを実施した事を受け、豪ドル安に連動してNZドル/円は84.067円まで急落。その後NZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品入札において、GDT指数が前环比+9.4%(前回:+1.0%)となった上、NYダウ平均や原油相場が上昇した事から、87.179円まで反発。なお、NZ第4四半期失業率が5.7%と予想(5.3%)より弱い結果となった事を嫌気して85.779円まで再び値を下げるも、同時に発表された労働参加率が69.7%、平均時給は+0.4%といずれも予想(69.1%、+0.3%)より強い結果であったため、その動きは一時的であった。
5日	NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が議会証言で、「NZドルは依然として不当で持続不可能なほど高い」「物価圧力が緩和されれば利下げの正当な理由になる可能性がある」等と発言した事に反応してNZドル/円が86.124円まで下落。ただ、「インフレ率は目標値を下回ったあと2%へ向けて徐々に上昇していく見通し」「政策金利の安定期間設定がもっとも賢い選択肢」とも発言しており、NZドル売りの動きは一時的であった。その後は日経平均やNYダウ平均の堅調推移を受けて87.296円まで反発した。
9日	日経平均の上げ幅縮小を嫌気してNZドル/円は87.264円まで下落。8日に発表された中国1月の中国貿易収支の輸入が前年比-19.9%(予想:-3.2%)と、石炭を始めとする商品の輸入が減少した事が判明し、中国の経済成長鈍化への警戒感が改めて広がった事も重石となった。ただ、その後は原油相場の上昇を受けて88.286円まで反発した。
12日	日銀関係者の話として「日銀追加緩和は逆効果、10月緩和は消費者マインドに悪影響」等と一部で報じられると円買いが強まり、NZドル/円は一時87.289円まで急落した。
24日	RBNZが発表した2年後のインフレ予想が1.80%(前回:2.06%)と、1999年第2四半期以来となる低い伸びとなった。市場ではRBNZが来年に入ってもかなりの期間、政策金利を据え置くのではとの見方が広がり、NZドル/円が急落した。
25日	中国2月HSBC/マークイット製造業PMI・速報が50.1(予想:49.5)と3か月ぶりに好不況の分岐点を上回った事を好感して、NZドル/円は上昇。NY市場で89.871円まで一段高となった。なお、NZ乳業大手フォンテラが「2014/15年の乳価支払見通しを1キログラム当たり4.7NZドルに据え置いた」と発表した事が伝わるも反応は限定的。また、NZ1月貿易収支は0.56億NZドルの黒字(予想:1.58億NZドルの赤字)と昨年6月以来の黒字となったが、NZドル/円買いの動きは一時的であった。

## NZD/JPY

## 日 経 平 均

OPEN	17536.61
HIGH	18865.39
LOW	17271.87
CLOSE	18797.94

## NYダウ平均

OPEN	17169.99
HIGH	18244.38
LOW	17037.76
CLOSE	18132.70

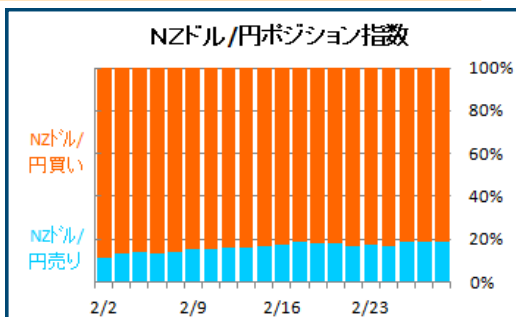
## 上海総合指数

OPEN	3148.136
HIGH	3324.546
LOW	3049.111
CLOSE	3310.303

## NZ10年債利回

OPEN	3.1480%
HIGH	3.3680%
LOW	3.0860%
CLOSE	3.2930%

## 2月のポジション動向



## 3月の注目ポイント

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札 (3日、17日)
- ・中国全国人民代表大会 (5日～)
- ・米2月雇用統計 (6日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート (11日)
- ・日銀金融政策決定会合 (16～17日)
- ・米FOMC (17～18日)
- ・NZ10-12月期GDP (19日)
- ・中国3月HSBC製造業PMI・速報 (24日)
- ・主要国株価、原油相場

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 3月の見通し

NZでは今月、RBNZの金融政策発表が予定されている。現時点での市場予想は政策金利の据え置きであり、市場の関心は金利よりも声明文に集まっている。先月RBNZが発表した2年後のインフレ見通しを受けて利上げ再開時期の後ずれ観測が浮上しており、低インフレが長期化するとの見方を示せばNZドル売りの材料となろう。ただし、今年に入りNZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品オークションが好調が続いているのを始め、NZ経済や雇用が好調である事などから、インフレ低下が一時的に留まるとの見方を示されればNZドル買いが入る事もあり得る。

テクニカル面では、NZドル/円は今年に入り週足の一目均衡表の雲の中に突入するも一時的となり、先月末にかけて反発。その際に基準線や転換線も突破しており、相場は反発局面に入った可能性がある。もし今年1月20日高値(91.906円)を超えると、昨年12月29日高値(94.031円)まで主だった目標値が見当たらないため、この水準を目指す一段高もあるだろう。

その他、NZの主要輸出先である中国で全国人民代表大会が開催される。昨年のGDPは目標(約7.5%)を僅かに下回る7.4%に留まるなど景気減速が懸念される中、今年のGDP目標は7%台を維持するのか注目したい。(川畑)

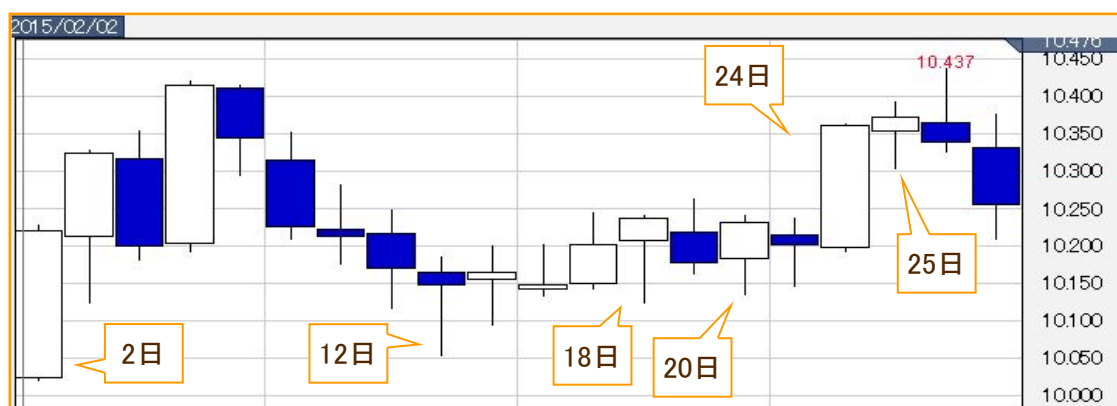
(予想レンジ: 87.600～94.000円)

## ランド/円 2月の推移

# ZAR/JPY

2月のランド/円相場は10.022～10.437円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の上昇（ランド高・円安）となった。

月初はドル/円相場の下げに連れて安く始まるも一時的。その後は為替市場に様子見ムードが広がったことから、ランド/円は先月に続き概ね10円ちょうど～10.50円レベルでのレンジ内でもみ合う展開となった。南ア国内では10-12月期国内総生産(GDP)等が発表されるも、次回3月の金融政策発表についての手掛かりにならなかった。こうした点もランド/円の膠着感を強めた背景にありそうだ。



### 四本値

OPEN	10.026
HIGH	10.437
LOW	10.022
CLOSE	10.257

2日	ドル/円相場が安く始まった影響を受けてランド/円は10.022円まで下落するも、その後は本邦輸入企業からの円売りの動きなどを受けて反発した。
12日	日銀関係者の話として「日銀追加緩和は逆効果、10月緩和は消費者マインドに悪影響」等と一部で報じられると円買いが強まり、ランド/円は10.054円まで急落。ただ、売り一巡後は下げ幅を縮小した。
18日	南ア1月消費者物価指数は前年比+4.4%と予想(+4.5%)を下回り、2011年4月以来となる低い伸びとなった。ただ、ランド/円相場の反応は薄かった。
20日	ユーログループのダイセルブルーム議長が「ギリシャ支援4カ月延長で合意」「共通の土台を確立できた」「ギリシャのプログラムには柔軟性を持たせてある」等と発言。これを受けてNYダウ平均が史上最高値を更新すると、ランド/円は10.241円まで上昇した。
24日	南ア10-12月期国内総生産(GDP)が前年比+1.3%、前期比年率+4.1%といずれも予想(+1.0%、3.8%)を上回る伸びを示し、前回分も上方修正(前年比:+1.4%→+1.6%、前期比年率+1.4%→+2.1%)されたため、ランド/円はやや買われた。その後、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「新ガイダンスは必ずしも次2会合での利上げを意味しない」など利上げを急がない姿勢を示したことからNYダウ平均が上げ幅を拡大すると、10.363円まで一段高となった。
25日	南ア財務省が同国の慢性的な電力不足を理由に、2015年の経済成長率見通しを2.0%、16年は2.4%と、昨年10月時点(2.5%、2.8%)から引き下げた。ただ、ランド/円相場の反応は限定的であった。

## 日 経 平 均

OPEN	17536.61
HIGH	18865.39
LOW	17271.87
CLOSE	18797.94

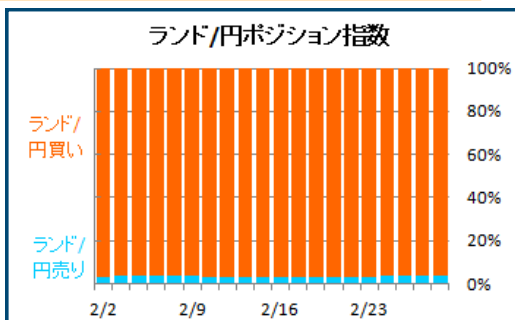
## NYダウ平均

OPEN	17169.99
HIGH	18244.38
LOW	17037.76
CLOSE	18132.70

## N Y 金

OPEN	1284.10
HIGH	1284.70
LOW	1191.60
CLOSE	1213.10

## 2月のポジション動向



## 3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国全国人民代表大会(5日～)
- ・中国3月HSBC製造業PMI・速報 (24日)
- ・米2月雇用統計(6日)
- ・SARB政策金利発表(26日)
- ・日銀金融政策決定会合 (16～17日)
- ・南ア2月貿易収支(31日)
- ・南ア2月消費者物価指数(18日)
- ・主要国株価、原油相場
- ・米FOMC(17～18日)

## 3月の見通し

今月のSARB理事会について、事前予想では政策金利の据え置きがコンセンサスとなっており、注目は声明文に集まっている。先月南ア財務省が同国の経済成長見通しを引き下げた事や、足元のインフレが落ち着いている事などから、SARBは当面の間政策金利を据え置く可能性が高まりそうだ。

また、米国では連邦公開市場委員会(FOMC)が開催され、声明文で「利上げに向けて『辛抱強く』いられる」という文言が削除されるかが焦点である。削除されれば6月利上げの可能性が高まるが、残れば9月以降に後退する事も考えられる。利上げ前倒し観測は米長期金利の上昇要因であり、これを受けて米ドル買いが強まるようだと、ドル/ランドの上げ(ドル高・ランド安)主導でランド/円相場を下押す可能性がある。ただし、利上げできるほどに米経済が回復しているとの見方が広がり、先月に続きNYダウ平均が史上最高値を更新するようならば、逆にリスクを積極的にとる動きからランド買いの要因となる事も考えられる。米長期金利と米株価のどちらが強く反応するかを見極めたい。

その他、南アにとって主要輸出先である中国で、全国人民代表大会が開催される。昨年のGDPは目標(約7.5%)を僅かに下回る7.4%に留まるなど景気減速が懸念される中、今年のGDP目標は7%台を維持するのか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 9.900～10.600円)